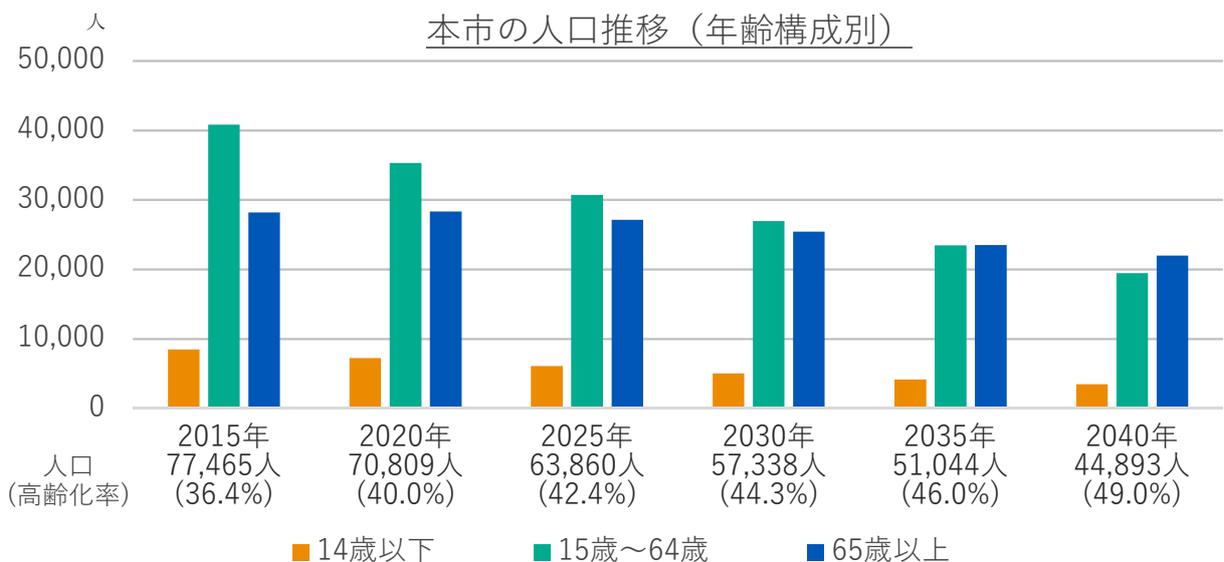


第2章 宇和島市の現状と課題

(1) 宇和島市の現状

若年者を中心とした人口流出と少子高齢化による人口減少が進行しています。このことは、地域コミュニティの活力低下につながっており、地域コミュニティを維持すること自体も困難な状況になりつつあります。

また、地域課題に対応した各種NPO・ボランティア団体が誕生する中、高齢化が進み、活動が困難となっている団体も見受けられます。



※人口及び高齢化率

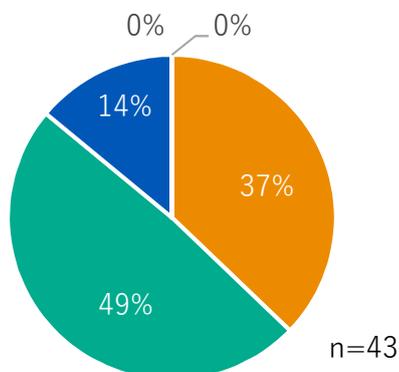
2020年以前は国勢調査の確報値、2025年以後は国立社会保障・人口問題研究所の2018年推計値

(2) NPO団体の現状

NPO団体に実施したアンケートでは、協働の重要度について「かなり重要・重要」との回答が最も多い結果となっています。

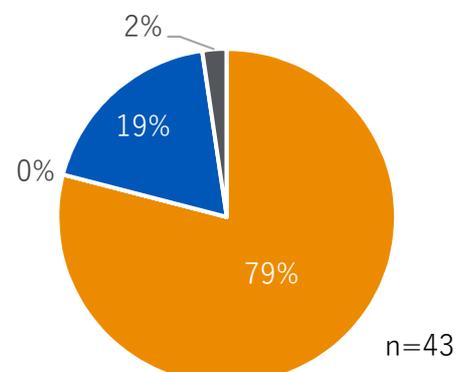
また、他団体との交流や連携の必要性は、回答があった43団体の内、34団体が必要があるとの認識を示しています。

協働の重要度



凡例	件数
■ かなり重要	16件
■ 重要	21件
■ どちらともいえない	6件
■ あまり重要ではない	0件
■ 重要ではない	0件

他団体との交流や連携の必要性

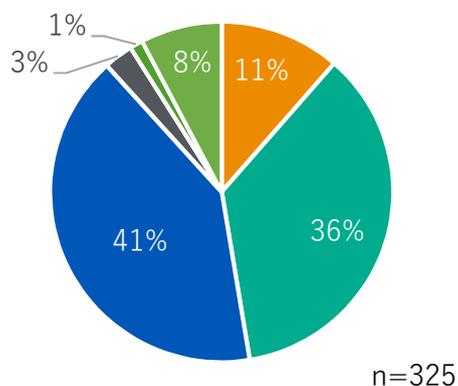


凡例	件数
■ はい	34件
■ いいえ	0件
■ どちらともいえない	8件
■ 未記入	1件

(3) 自治会の現状

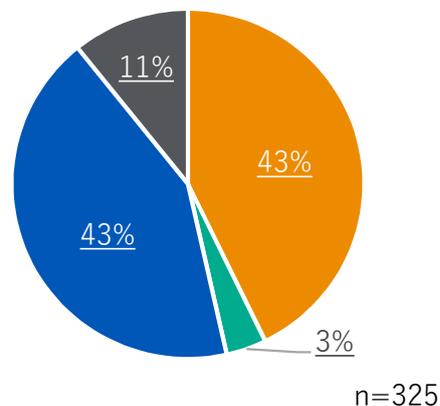
自治会に実施したアンケート結果では、協働の重要度は、「かなり重要・重要」が、最も多い回答結果となっています。また、他団体との交流や連携の必要性は、回答があった325自治会の内、139自治会が必要があるとの認識を示しています。

協働の重要度



凡例	件数
かなり重要	37件
重要	117件
どちらともいえない	133件
あまり重要ではない	9件
重要ではない	4件
未記入	25件

他団体との交流や連携の必要性

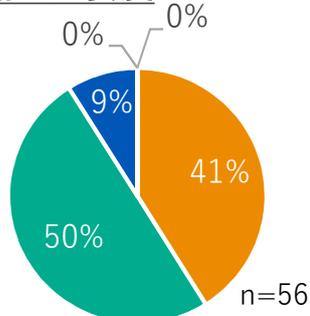


凡例	件数
はい	139件
いいえ	12件
どちらともいえない	139件
未記入	35件

(4) 企業・団体の現状

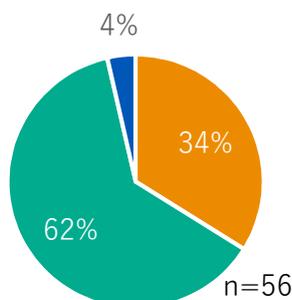
企業・団体に実施したアンケート結果では、協働の重要度について「かなり重要・重要」との回答が多い結果となっています。また、NPO団体等との協働については、現在、協働の経験が「ある」と回答した企業・団体よりも、今後協働の継続・見込みが「ある」との回答が多い結果となっています。

協働の重要度



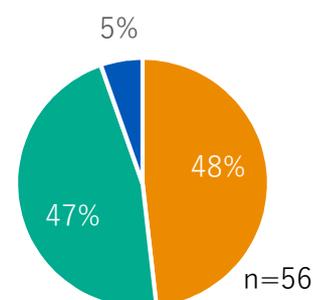
凡例	件数
かなり重要	23件
重要	28件
どちらともいえない	5件
あまり重要ではない	0件
重要ではない	0件

NPO団体との協働



凡例	件数	%
ある	19件	34%
ない	35件	62%
未記入	2件	4%

協働の継続・見込



凡例	件数	%
ある	27件	48%
ない	26件	47%
未記入	3件	5%

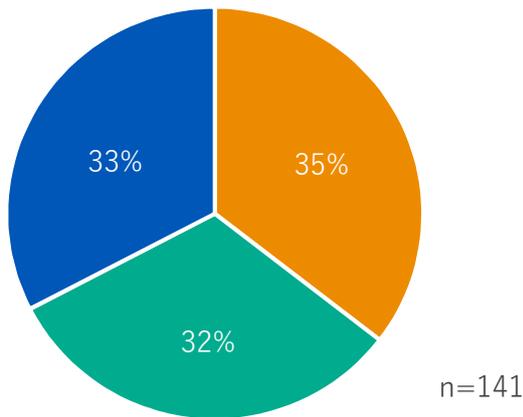
(5) 市民の現状

市民（オンライン）に実施したアンケートでは、協働の経験は、「現在行っている・以前行ったことがある」との回答が多い結果となっています。

協働への参加方法は、「自治会」を通じてと回答した人が最も多く、次いで、「学校」「NPO団体やボランティア団体」を通じた参加が多くなっています。

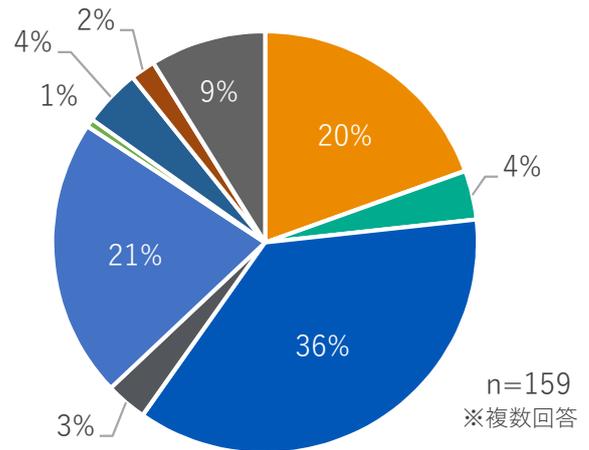
市民の意識として、協働への関心が高いほか、身近な団体を通じて協働の取り組みに参加している人が多い結果となっています。

協働の経験の有無



凡例	件数
現在行っている	50件
以前行ったことがある	45件
行ったことがない	46件

協働への参加方法



凡例	件数
NPO団体やボランティア団体	31件
農協、漁協、森林組合、商工会、商工会議所	6件
自治会	58件
民間企業	5件
学校（小・中・高）	34件
大学等高等教育機関	1件
社会福祉協議会	7件
中間支援組織	3件
その他	14件

(6) 課題

(1) から (5) の宇和島市の現状及びアンケート調査結果を踏まえると近年様々な地域課題が顕在化していく中で、地域課題の解決のためには「多様な主体」が情報を共有すると共に、「協働のまちづくり」の担い手として、すべての人が連携していく必要があることが伺えます。

そのためには、「多様な主体」が互いに支え合いながら、協働できる体制の確立を図っていく必要があります。